

まちかど

アルバム



鳥取に来なんせえや

東町2丁目

鳥取城跡のお堀端に4月28日(火)、観光ボランティアガイドの詰め所「きなんせえや」がオープンしました。関係者が見守る中、記念の式典が行われ、鳥取市観光ガイド友の会会長、金尾信明さんと竹内市長が看板を掛け、オープンを祝いました。金尾さんは「鳥取のおいしいものや、きれいな鳥取砂丘などをどんどんPRしていきたい。地元のみなさんも、ぜひ、立ち寄ってください」と意気込みを語っていました。

棚田を守るために頑張っています

国府町上地

4月29日(水)、国府町上地集落で、棚田保全応援隊が水路の清掃を行いました。棚田を利用する農家が5戸に減り、用水路の維持管理が困難となっていることから、毎年ボランティアを募り、春と夏に開催しているものです。晴天に恵まれたこの日は、ボランティアと地元住民約200人が6つのグループに分かれ、扇ノ山(標高1310m)の標高800m地点の源流から山肌をほうのように人力で掘削された京ヶ原用水路(全長4km)の清掃作業に汗を流しました。



佐治谷話の紙芝居

さじアストロパーク

5月2日(土)、語り部グループ、さじ民話会(岡村絹江会長)が、さじアストロパークで開催された「星まつり」で、「だんご」の紙芝居を初披露しました。これは、佐治町に古くから伝わる民話、佐治谷話の一つに数えられる「だんご」を幅広い年齢層に楽しんでもらおうと、さじ民話会が同町出身の作家に制作を依頼したものです。「カチン!カチン!」という拍子木の音を合図に上演が始まると、語り部の山下政則さんが味のある語り口で会場を沸かせていました。

シイタケのほだ木作りを体験

大村地区公民館

4月26日(日)、大村地区に住む用瀬小学校の児童が、公民館でシイタケのほだ木作りを体験しました。地元の栽培農家からシイタケの育つ環境や栽培手順を教わった後、2種類のシイタケ菌が染み込んだ木片を金づちで原木に打ち込み、ほだ木が完成。完成後は、すでに収穫されたシイタケを炭火で焼き、秋に立派なシイタケが生えることを願いながら味わっていました。





袋川を泳ぐこいのぼり

袋川

4月29日(水)、袋川に架かる若桜橋から花見橋までの約100メートルの川面に、こいのぼりが出現しました。これは、袋川の美化に取り組む「袋川をはぐくむ会」(栗島道和会長)が、好意で寄せられた50匹のこいのぼりを、鳥取商工会議所青年部と鳥取青年会議所の手を借り設置したもので、今回で2回目。端午の節句まで飾られ、道行く人の目を楽しませていました。

初めての交流会

福部幼稚園

5月12日(火)、河原幼稚園とこじか幼稚園の園児が福部幼稚園を訪れ、市立幼稚園3園の子どもたちが楽しく交流しました。初めてとなる交流会に最初は緊張した様子の子も、みんなでお昼ご飯を食べるころにはすっかり打ち解けた様子に…。広々とした園庭で手をつないで遊んだり、ウサギと楽しく触れ合ったりしました。帰るときには「また遊ぼうね」と言って握手をしながら別れた園児たち。次回の交流会が待ち遠しいようです。



ペットボトルロケット、発射!

湖山池お花畑ゾーン

4月19日(日)、湖山池お花畑ゾーンで恒例の「フラワーフェスティバル in 湖山池」が開催されました。8回目となる今回は、ガーデニング教室やフリーマーケット、船で湖山池を周遊するイベントなど多彩な催しが開催され、大勢の家族連れでにぎわいました。中でも、手作りのペットボトルロケットを飛ばす大会は大人気で、子どもたちやその保護者74人が参加。149メートルの大記録が飛び出すなど、大盛り上がりでした。



お城で一服 殿様気分

河原城

お城山展望台「河原城」で5月3日(日)と4日(月)の2日間、恒例の「春の大茶会」が開催されました。この催しは、阪神・淡路大震災の被災者支援を目的に始まったチャリティーイベントで、今年で14回目。



新緑の青空の下、2日間で約1,400人の来場者が、野点を満喫しました。他にも、イギリスの紅茶やドイツのハーブティーなど世界各国のお茶が飲めるコーナーもあり、来場者は味の違いを楽しんでいました。

真剣なまなざしで勾玉作り

青谷上寺地遺跡展示館



5月6日(水)、弥生時代の装身具「勾玉」を知ってもらおうと、青谷上寺地遺跡展示館で「みんなで作ろう! 勾玉づくり」が開催されました。参加したのは、幼稚園児から中学生までの子どもたち51人。手

が真っ白になるまで滑石を一生懸命削り、思い思いの色を付けて勾玉を完成させました。その後、管玉などと組み合わせて首飾りを完成させ、大満足の様子でした。